

室町だより

平成30年3月19日 N015 後期児童からの評価特集号

京都市立室町小学校 校長 山田 栄造

TEL(075)431-0358 Fax(075)431-0359

学校 HP <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/muromachi-s/>

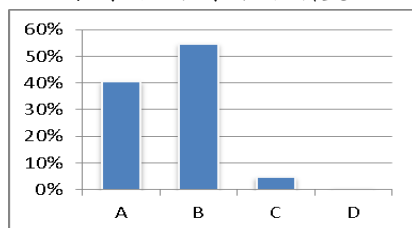
少しずつ春の暖かさを感じる季節になりました。6年生は、22日の卒業式に向けて準備を整えています。

さて、後期も1月に児童からのアンケートを実施し、その結果を下記のようにまとめました。子どもたちが意欲的に学校生活を送り、よりよい学習集団が育つよう、評価をいかした学校改善をさらに進めていきたいと考えています。



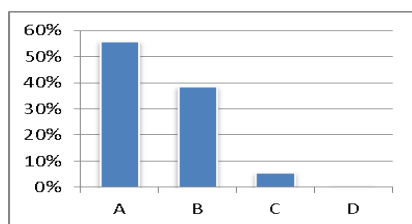
＜評価項目＞ A:大変よくできている。B:できている。C:少しできていない。D:できていない。

NO.1 今学校や学級は楽しいですか。



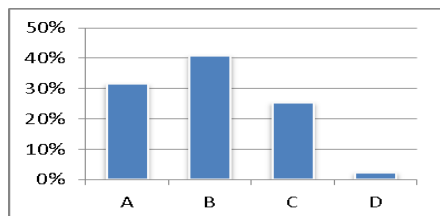
A・Bのポイントを合わせると95%となり、前期以上に学級に慣れ親しみ、楽しく学校生活を送っている子どもがほとんどといえる。しかし、学校や学級を楽しくないと感じている子どももわずかに見られる。一人一人の思いに寄り添い、教職員全体で関わることで学校がより良い居場所となるよう来年度も取り組んでいきたい。

NO.2 友だちと仲良く協力して学級の活動をしていますか。



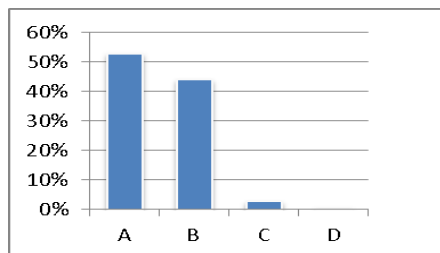
A・Bのポイントを合わせると94%となった。学習や学習発表会などの行事、係活動などを通して、協力して活動する良さを味わった子どもたちが多かった。子どもたちの個性を生かし、それぞれが達成感を味わえるような行事・学習ができるよう今後も取り組んでいきたい。

NO.3 学習中発表がよくできていますか。



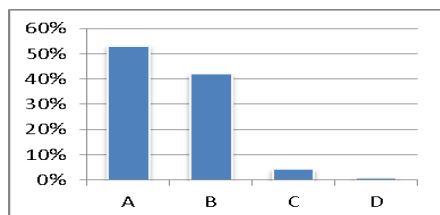
A・Bのポイントを合わせると73%で、前期よりも1%上昇した。しかし、自分の考えを人前で話す力をすべての子どもにつけることが大切である。指導者が話しすぎず、子どもたちの発言をつないで学ぶことができる授業を構築していきたい。

NO.4 先生や友達の話をよく聞いて学習していますか。



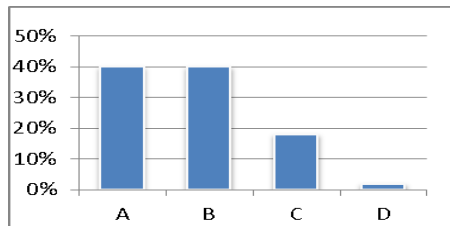
96%の子どもが、先生や友達の話をよく聞いていると答えた。相手の話をしっかり聞くことは、学習するうえでとても大切なことである。指導者が学年に応じたよりよい聞き方のイメージをしっかりと持ち、それを示しながら継続して丁寧に指導していく必要がある。

NO.5 学習(授業)はよくわかりますか。



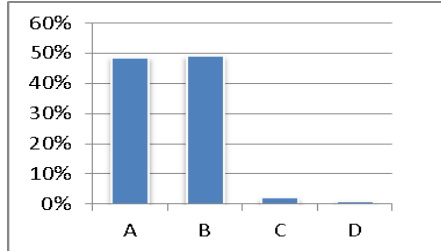
A・Bのポイントを合わせると95%になり、授業についてよく理解できていると感じている子どもが多い。C・Dと答えた子どもについては、各担任が個々に把握し、子どもたちがどのあたりでつまづいているのかを見極め、指導していく必要がある。また、どの子どもも分かる授業を目指し、今後も授業力の向上に取り組んでいく。

NO.6 先生にいろいろなことを話しますか。



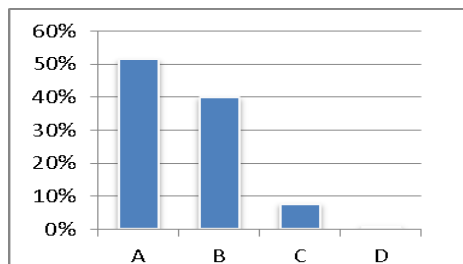
先生と話せている子どもは80%で、前期に比べて4%上がった。「話しているけれどもっと話したい。」と、指導者との関わりを深く求める子どももみられた。自分からあまり指導者に話す必要性を感じていない子どもも見られるが、休み時間や放課後など、指導者が率先して話しかけ、コミュニケーションを図っていきたい。

NO.7 先生は自分たちのことをよくわかっていてくれると思いますか。



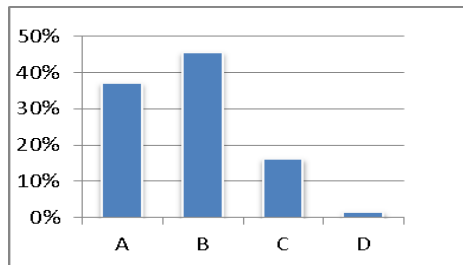
A・Bのポイントを合わせると97%あり、先生は概ね自分のことを理解してくれていると感じているようだ。困った時には先生に相談しようと子どもが思えるよう信頼関係を作っておくことが大切である。また、表情や日頃の様子にこまめに気を配り、子どもたちの思いに気づき、理解できるように心がけていきたい。

NO.8 すすんで挨拶をしていますか。



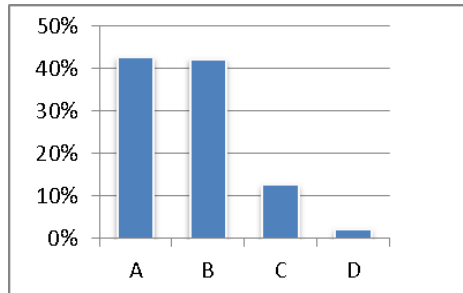
92%の子どもが、すすんで挨拶していると答えているが、保護者アンケートの結果では77%である。(前期より5%増)児童会によるあいさつ運動などで挨拶をしようとする意識はやや生まれてきたが、朝の挨拶では元気がなく自分からしにくい子どもも見られる。学校・家庭・地域で連携して挨拶をさらに呼びかけていきたい。

NO.9 早寝・早起き・朝ご飯など規則正しく生活していますか。



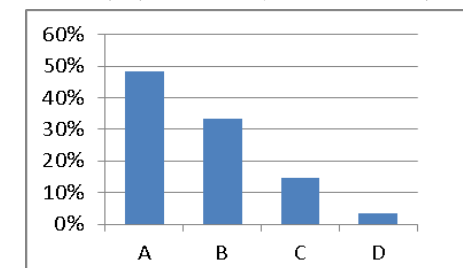
A・Bを合わせると82%で、前期より6%上がった。寒い冬の日の朝は、なかなか起きられなかったり、高学年になると習い事などで忙しく、寝るのが遅くなったりしがちである。しかし、生活リズム調べやおたよりでの呼びかけによる家庭での協力の結果、規則正しい生活を意識できた子どもが多かった。今後も継続したい。

NO.10 宿題や自主学習に、自分から取り組んでいますか。



A・B合わせて85%で、自分から取り組むことができる子どもたちが多くみられる。しかし、保護者の方の評価は68%で自主的に取り組もうとする姿勢についてはまだまだである。低学年のうちは特に家庭の協力も不可欠だ。家庭と学校が連携できるように、学習の取り組み方を丁寧に伝え、課題にはこまめに目を通し励みになる声かけや朱書きを行っていききたい。

NO.11 すすんで読書をしていますか。



A・Bのポイントを合わせると82%であった。今年度も、100冊読書を目指して取組を進めたが、学年や学級によって取組に差が見られた。読書はすべての学習の土台となる大切なものである。学年に応じた明確な目標設定を行い、すべての子どもが読書に向かえるように読書環境を整えていきたい。